

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>地域密着サービスに移行して、改めて理念をつくり、業務日誌の項目に取り入れたり、目に付く所に掲示している。毎朝の申し送りで理念を復唱しその内容を共有している。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>業務日誌に記入し朝の申し送りの際に職員間で復唱しているが、その内容については各々の解釈であり統一見解ではない。</p>	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>地域の人達と関わったことなどは常に報告しているが、その大切さを理解してもらい取り組みは不十分である。</p>	<p>○ 地域活動への参加の際に事業所の説明や活動報告などを繰り返し行う。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩の時などは、近隣の人に挨拶を欠かすことなく行っている。</p>	<p>○ 散歩時のコースに変化を持たせ、広い範囲で日常的な付き合いをしていきたい。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>敬老会やご家族との交流会などに、近隣の自治会の参加を行なっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	家族会などを使い「ホームで出来る事はないか」話し合いは出るが具体的な実案にまで至っていない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第一回目の外部評価なので、職員全員で評価項目を話し合う機会を作り、理解することで前向きな改善に努めている。	○	結果を元に更なるサービスの質向上に努めたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1度開催しているが、様々な理由でその後開催されていない。	○	家族会を毎月定例として行っているので各月の先渡しのスケジュールで各関係者との連携しながら行っていきます。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	挨拶&情報の提供を行い公民への出入りを頻繁に行っている。	○	管理者やスタッフの出入りだけでなく入居者も含めて連携や行事の参加を行っていききたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在制度が必要な入居者がいないため、制度の活用までには至っていない。	○	制度利用の必要な状況になれば、関係機関に早めに相談し活用していききたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフの職場上のストレスが貯蓄せぬようコミュニケーションを図り、ホーム内で虐待が起きないように努めている。	○	勉強会等の機会を増やし、知識を深めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には十分な時間をとっている。 質問事項に対しても同じく時間を掛けて対応を行っている。 看取りに関しての質問等は極めて少ないが質問の有った事に関して適切に答えられるか不安である。	○	看取りに関しての質問マニュアル化に対しては検討中です。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の些細な行動や現状から不満や苦情を感じ取り利用者本位の支援ができるように心がけている。 定例ミーティングでも利用者本人の苦情や不満は何かを細かく話し合っている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度家族会を設け、生活状況及び心身の変化について説明を行っている。面会時や電話での報告説明も同時に行っている。 尚面会の家族などに目に付く所で活動の写真などを掲示しています。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン更新時に意見や苦情を聞き入れたり、家族会の時に出た意見なども取り入れ、今後の運営や介護に役立っている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティングを行い、職員から意見や提案を出し合っている。 ミーティング内での個人的な意見がすべて聞き出していない可能性もある。	○	個人の面談を定期的に行い個人の意見や要望が聞ける様にしたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態や変化に対応した勤務体制を作っている。 又、職員の急な休みや病欠などは、法人から応援体制が出来ている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や離職時は引き継ぎの時間を設ける等し、利用者のダメージを最小限にするよう心がけている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修期間とホームスタッフのシフト調整が合わず消極的な参加に成っています。	○ スタッフの事情 & 退職などでも追加採用をスムーズにお活かし業務に支障の無い研修参加が出来る用な体制作りを行います。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沖縄県グループホーム連絡会に加盟し、管理者間の交流を行っている。	○ 管理者は交流を行っているが、職員同士の交流が行われていない。今後研修の参加や、他のホームに見学に行く等して交流を深めていきたい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎月2回の希望休は、ほぼ希望ど通りにシフトを作成している。 有休消化も前月での希望により出来るだけの考慮で適えている。 建造物の構造上職員の休憩室は無いが30分の休憩を交替で取っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	個々の個性を尊重し努力や実績など考慮している	○ 個々との個人面談の機会が少ないので定期的に時間を設け行います。
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居希望者にはホーム見学時や面接時に、ホームの雰囲気をつかんでいただくよう心がけている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の日々のストレスや苦悩、今後の方向性を確認した上で、介護支援専門員とも協議しながら、相談及び定期的な連絡実施を進めている。	○ 利用者の入所後は、慣れるまで家族の面会の機会を増やしていただき、グループホームの取り組みを理解していただくようにする。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自己決定に基づいた支援を実施した、介護支援専門員と連携しながら話しを進めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所当初はホームに馴染んでいただけるよう、職員が利用者との間に入り声かけをしている。人的、物的環境設定に配慮し、精神的なストレスに留意しながら、無理強いせず徐々に馴染んでいただけるよう取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食器拭き、洗濯物たため、買い物、掃除、新聞を取る等、入居者個々が役割を持ち、職員と利用者がお互いに「ありがとう」と声をかけあえる雰囲気作りをしている。入居者同士が共にお互いを尊重しあい助け合い生活している。月に一度回想法を取り入れ、入居者が職員に教える、伝えるといった役割も担っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	生活の経過報告や暮らしぶりを見て頂いたり入居者本人が抱えている課題を、職員だけでなく家族とも本人の思いを共有し家族・スタッフの協力の元、本人を支えている関係を築いています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族にはホーム入所をきっかけに関係が疎遠にならないよう、面会の促しや雰囲気作りが心がけている。入居者が不安で家族との会話を望んでいる時は、家族に電話をかけ、直接話ができるよう協力を得られている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時の家族との会話や、アセスメントで得られた情報等を職員全員で把握し、馴染みの人や思い出等を日々の会話に取り入れるよう心がけている。ドライブに行く際も懐かしい思い出の場所を巡るなど、目的を持った取り組みを行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	場に馴染めない入居者や聴力障害のために、上手く会話に参加できない方には、職員がさりげなく間を取り持つ支援を行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退去後も電話連絡などで身体状況及び認知症の諸症状の確認を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日常のケアの中で本人の暮らしへの意向、希望を把握し理解するよう努めている。本人からの確認が困難な時は、家族も含め故本理念にもある「その人らしさ」を前提に検討を進めている。 家族との外出を希望する利用者には、家族に買い物や法事などに参加できるように協力していただいている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時に本人及び家族から今までの生活歴や、趣味嗜好、性格等の情報を聞き取りしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の係わりの中で本人の希望を確認しながら、生活支援を行っている。食事、排泄、睡眠及びバイタル測定を行い、健康状態を把握している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者、家族の希望を元に月一度のミーティングと同時にカンファレンスを開催している。計画作成担当者は他の職員からの情報も収集し、自立支援に向けた介護計画を作成するよう心がけている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は通常3ヶ月に一度見直しを行っている。入退院時や状況が変化した時は日誌等で情報を共有し、随時見直しを行っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況等は個別の介護記録に記入し、情報の共有に心がけている。介護計画も職員全員が目を通し理解した上で、月に一度のカンファレンスで見直し介護に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	希望する利用者(9名中7名)に関しては、月に2回の往診があり24時間医師、看護師との連絡が可能である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	一部の自治体や大学のボランティアなどを使ってホームイベントに参加して頂いたりして交流を行っている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問診療利用者が7名です。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	ホーム内見学などの常時受付を行うことでホーム活動の理解をして頂いています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望する利用者(9名中7名)に関しては月に2度の訪問診療を行い、24時間医師、看護師との連絡が可能である。入所前からの病院への診療を希望する利用者には継続して受診していただくことで、利用者に安心した医療を受けられるよう支援している。		

沖縄県(グループホーム ふれあい)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		<p>月</p> <p>月に3回内科のDrが往診(1回に3人程度)を行って健康面 精での管理を行っています。 すが、認知症の専門性(精神科)での状況管理には乏しい</p>	<p>今後は精神科との受診&相談窓口を作り情報交流を持つ 事で利用者の精神安定や適切な介護に努めたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		<p>看護職員を配置しており介護職員と連携し健康管理を行っ ている。</p>	
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		<p>入院中でも本人とホームのつながりを失わない様に利用者 がホーム内での様子や写真を見せたりする。 頻繁にお見舞いする事で退院後のホーム生活がスムーズ に成る様にサポートする。</p>	
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>終末期の受け入れは確実に行って行く方針です。 開設より重度化や終末期の対応は有りません。</p> <p>終末に対するマニュアルの作成を行う。</p>	
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		<p>現在に至るまで終末期の対応は有りませんが、同営業所な いの看護師や往診Drとの意見などを取り入れ今後は更なる 情報連携と方向性を高めていきます。</p>	
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>関係者と情報提供を行い、環境の変化のダメージを最小限 にするよう配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	長い共同生活の中で馴れ合いによる言葉の扱いで、行動や言葉が悪く成って行く傾向があるので、定例ミーティングでいろいろな角度での関わりを点検して行く。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活の中で自主性や主体性が出やすいように、行動を制止しないよう心がけている。入居者の表情や動きなどを観察しながら、その時々に応じた支援を行っている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、個人の生活リズムに合わせた一日を過ごして頂くよう配慮している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	基本的に毎日着る衣類は入居者にまかせている。支援の必要な入居者には選択していただくことでその人らしさに心がけている。散髪は馴染みの理髪店へ行くことで、家族との係わりも深めている入居者もいる。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しんでいただけるよう、入居者と一緒に行き食材選びをしたり、入居者と季節に合ったおやつ作りを取り入れる等している。回数は少ないが外食も行っています。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	水分補給は水のみならず(ゼリー・プリン・寒天など)また、飲み物に対してもお茶だけでなく(コーヒー・ポカリ・ジュース・玄米・ココア・牛乳)などなど行っています。	

沖縄県(グループホーム ふれあい)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一日を通しての排尿パターンがわかるように、チェック表を用いて職員が把握できるようにしている。トイレ誘導の際も個人の表情や、行動、習慣に合わせストレスを感じないように心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日の流れの中で基本的に入浴の時間を設けてはいるが、利用者の希望や体調を考慮し、自由な時間に入浴できるよう支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間自然と就寝につけるよう、利用者の体調を考慮しながら日中は活動的に過ごしていただいたり、過去の生活習慣も踏まえて個々に適した生活リズムを作れるよう支援している。 睡眠導入剤を服用している利用者もいるので、徐々に自然と眠りにつけるよう支援していきたい。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活で、利用者個々に自然とできた役割が確立されており、楽しみながら役割を果たす雰囲気作りに心がけている。月に一度のドライブも実施し、外出することで気晴らしになるよう支援している。	○	施設の周囲にも一年を通して花を活け、目で見るとも心がけている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に一度のドライブや食材の買い物時に、自己管理が出来る方にも、難しい方にも自由に買い物を楽しんで頂けるよう、家族と職員が協力してお金の管理支援を行っている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に一度のドライブには、ほぼ全員の利用者が毎回参加される。八重岳の桜見や泊港にいまいゆを買いに行き、季節の移り変わりを楽しんでいる。近所への散歩や食材の買い物なども頻繁に行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者からの要望でドライブの行き先を決めたり、ご家族との外出を希望される場合はご家族に協力頂き機会を作っている。		

記入日:平成20年4月30日

沖縄県(グループホーム ふれあい)

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があった場合は利用者自ら電話をかけたり、職員が対応する等している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者へは、お茶やお菓子を出したり、本人の部屋へ案内したりで歓迎している。 職員の立ち入りは避けて出来るだけ自然な関係が保てる様にしてしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開所してから現在まで抑制の実施はない。ミーティングや毎日の申し送り等で身体拘束をせず、事故もなくなるようなケアをするよう心がけている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が就寝につくまで、基本的に玄関に鍵をかけずに対応している。入居者が外に出た場合、歩行の安定した利用者は見守りをし様子を見ている。 玄関の内にも外にも椅子を配置し、利用者同士の交流の場となっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はフロアーに居る職員が見守っている。 夜間は、時間毎に、個人にあった方法で確認をしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬や刃物類の管理は職員が行っているが、日常的に使用する物は基本的にあるべき場所に設置してある。	○	薬などを管理している事務所は、出入り自由な状態になっている。今現在は入ってくる利用者はいないが、今後は何らかの対応が必要になってくると思われる。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒があった場合はヒヤリハットに記録し、申し送りなどで職員同士情報伝達をして、再発防止に取り組んでいる。また月に一度のミーティングで事故を未然に防ぐ方法を話し合い、事故防止に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急手当や初期対応のマニュアルは有るが職員全員が熟知し行動が取れるか不安である。		事故が起こった時の対処法を個人的に作成する予定で居ます。 今後作成した対処法に基づくイメージ訓練を行う事で職員全員が適切な対処を行えるようにして行く予定です。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の人々への具体的な協力願いはしていない。	○	マニュアルを作成し地域の人へも理解と協力をお願いするように働きかける。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	月に一度の家族会や面会時に利用者の生活状況を伝達すると同時に、起こり得るリスクについても説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝夕のバイタルチェックを行っている。 少しでも普段と違う点に気付いたらすぐにその情報を職員間で共有し看護師や主治医と連携し対応する事に成っている。 家族への報告も速やかに行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のチェックは、夜勤者が行います。 日勤で看護師が再度チェックを行い薬の誤薬を回避しています。 薬の目的や効用についてもすぐに理解できるようになっている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	毎日の申し送りで便秘の状態を把握し、即座に対応できるようになっている。日々の生活でも身体を動かしたり、水分を摂って頂けるよう個々の好みに合わせた飲み物を提供している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	ご自身で出来る方には声かけ等で対応し、介助が必要な方には出来る所まで利用者に行なっていただき、足りないところを職員が行うようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量を記録し、職員全員が把握できるようにしている。利用者の嚥下の状態に合わせて刻み食や、おかゆなどで対応している。 昼は系列のデイサービスの昼食を配色してもらうことで、栄養バランスを整えるようにしている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	流行の兆しや、近隣の発生の状況を情報収集し、その都度職員に伝達している。また利用者、スタッフともインフルエンザ予防接種を受け、日頃から予防に努めている。	○	感染に対するマニュアルを作成し統一した対応を図り感染予防に取り組んでいきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	包丁やまな板、布巾などは毎日熱湯消毒や漂白剤に漬けるなどして対応している。食材は2日に一度買い物に行き、冷蔵庫にはたえず新鮮な食材が入っているようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りは日常的に花を飾り、明るい雰囲気作りに努めている。玄関付近にベンチを置き、利用者と職員のふれあいの場になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間ではどこでもくつろげる様、和室やソファを配置している。毎月季節にあった切り絵を利用者が行っており、飾る事で季節感を室内でも味わって頂けるよう工夫している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先のイスや和室で、時には一人で、時には気の合う利用者同士でおしゃべり等をされている。そのような時は、職員は見守ったり、会話に入ったりと利用者の様子を見ながら対応している。		

沖縄県(グループホーム ふれあい)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時や入所後も、馴染みの日用品を持ってきてくださるよう働きかけている。手工芸などで作った各々の作品を部屋に飾ることで個性のある部屋作りに努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	風通りが良くなるように窓が配置され、外の光も良く入るよう設計されている。室温は利用者に暑がりな方と寒がりな方がいるため、その状況に応じ対応している。温度計の設置をし室内の換気管理を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーになっており、歩行が自立してる方はもちろん、車椅子の方にも生活しやすい様な設計になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレ、風呂場などには目線の位置に名札をつけ、意識して頂ける様工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設の周囲に花を植え、利用者がどこを見ても花を楽しめるようになっている。また、周囲は歩行可能な利用者には散歩が出来るようになっていて、自主的に歩行訓練をされてる利用者もいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

沖縄県(グループホーム ふれあい)

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)